

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(B) 4. 研究期間 平成22年度～平成25年度
5. 課題番号 2 2 3 3 0 1 5 2
6. 研究課題名 地域再生デジタル・ネットワーキングに関する調査研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
2 0 2 4 3 7 3 5	ホシカワ 千川 ツヨシ 剛史	人間関係学部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

災害被災地と条件不利地域と地方都市中心市街地とが連携した地域再生の取り組みについて、「デジタル・ネットワーキング論」の観点から、現地調査や文献・資料の分析を通じて、「地域再生デジタル・ネットワーキング」の有効性を検証し、よりよい地域再生のあり方を提案した。

具体的には、「eコミュニティ・プラットフォーム」を基盤にして「地域再生連携支援システム」を開発・構築し、本調査研究の結果を随時掲載することで、東日本大震災の地震津波災害被災地の宮城県南三陸町の被災地復興活動「南三陸町復興市」と霧島連山新燃岳の火山災害被災地の宮崎県高原町の「灰干しプロジェクト」それぞれの主要メンバーの間で、情報共有を通じて相互の交流と連携を促進した。

それと並行して、気仙沼市本吉地区での応急仮設住宅入居者の生活支援活動に特化した「応急仮設住宅生活支援Webデータベースシステム」を開発・構築し、試験的運用を行った。

なお、これらのシステムの開発と構築は、地域再生のための情報通信システムの開発・構築に実績のある「株式会社 ナブラ・ゼロ」に委託して実施した。

また、気仙沼市本吉地区での応急仮設住宅入居者の生活支援活動の参与観察に基づく現地調査と応急仮設住宅生活支援Webデータベースシステムの試験的運用を行う際に、現地調査と資料・データの収集・分析を地域再生支援の実績のある「特定非営利活動法人 基盤地図情報活用研究会」に委託した。

そして、これらの研究成果を論文、学会発表、Webサイトで公開した。

10. キーワード

- (1) デジタル・ネットワーキング (2) 地域再生 (3) 被災地復興 (4) 情報通信技術 (5) 東日本大震災
 (6) 霧島連山新燃岳噴火災害 (7) 南三陸町 (8) 高原町